

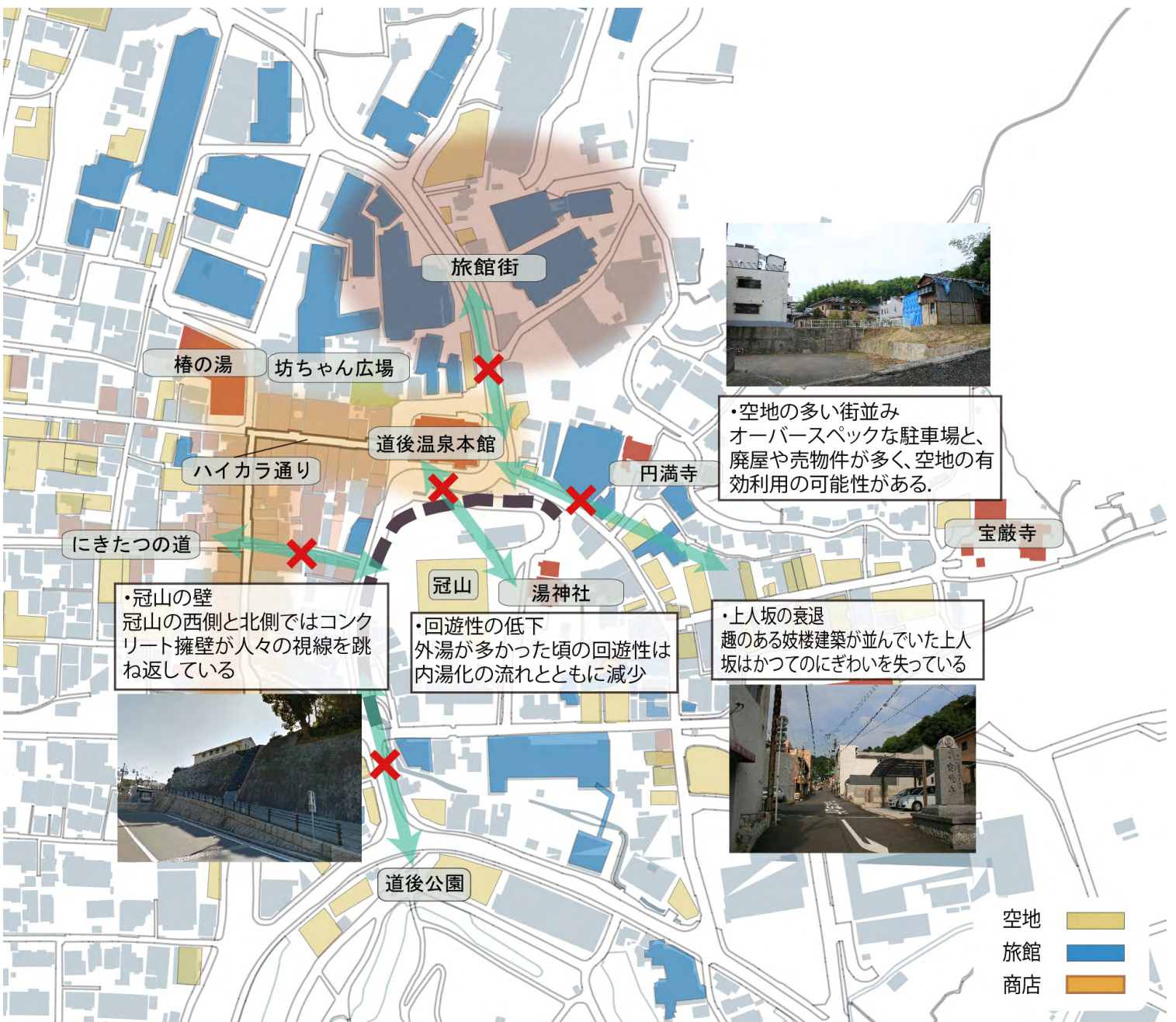


ほどきゆわえる

道後温泉本館は道後観光の目玉であり、荘厳な雰囲気放つ建築と、内部を回遊するおもてなし空間の対比は他では味わえない体験となる。しかし外湯文化が栄えたころのように、街をそぞろ歩く人は少なく、地域内には魅力的な旅館も多いが人々はそこに“閉じ込められている”。本館改修工事を機に資源を再評価し、「循環するまち」という将来像を掲げ、閉じた魅力をまちに段階的に波及させる。古来より多くの旅人や文化人が親しみ癒された、道後固有の風景を取り戻すことが道後の未来となる。

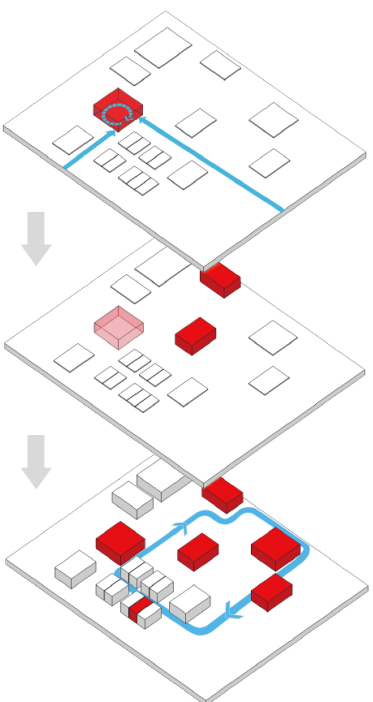
1 現況分析

かつて温泉を町有財産とし、外湯文化が栄えていた道後。しかし現在は歴史、資本金のある旅館が生き残り、建物は高層化、観光客は内湯を持つ旅館の中で観光を完結しがちである。また、地域内には大小多くの駐車場が点在し、街の中心に位置する冠山が歩行者の視線のエッジとなることもあり街全体の回遊性は高いとは言えない。かつて夏目漱石が「坊ちゃん」で記した上人坂の遊廊の雰囲気や、正岡子規が俳句で読んだ温泉情緒は失われている。



2 コンセプト

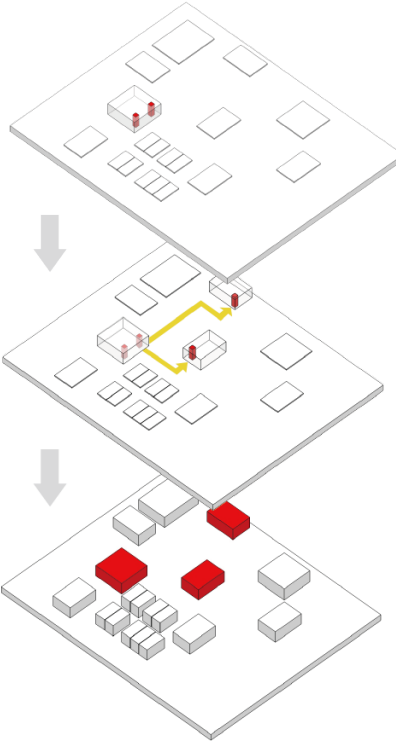
2.1 本館文化の展開と再構築



観光事業を本館建築のブランドに依存している現状に対して、改修を機に道後温泉本館の魅力である「温泉街の雰囲気放つ建築様式」と「本館内部での回遊形態」を街へと展開する。

本館改修により発生する余裕分の資材と湯を地域に浸透させることで、道後地域全体を本館の内部空間として再構築し、発展させていく。

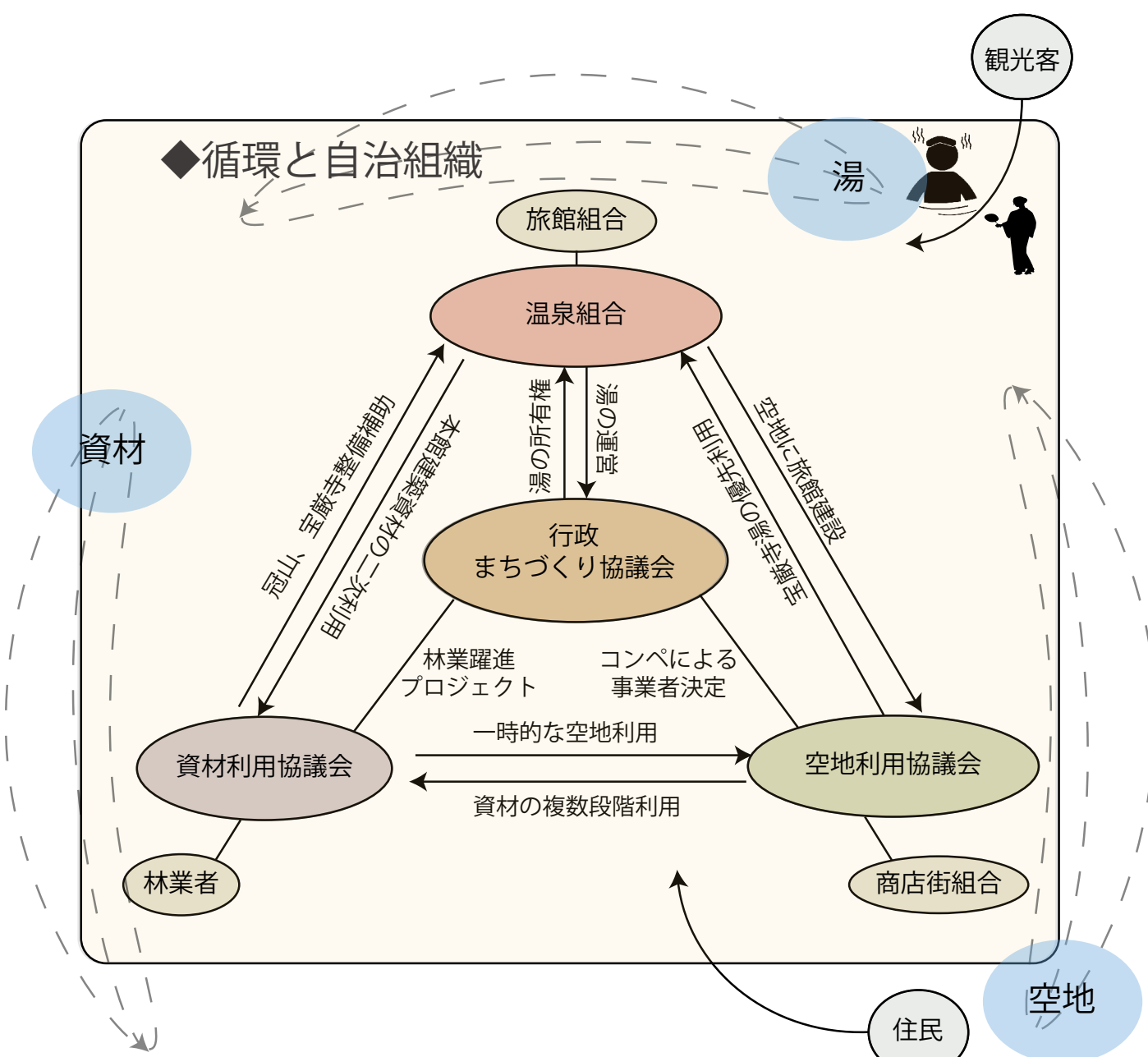
2.2 資源の循環



本館の改修により発生する余裕分の「湯」や「建築資材」、地域に点在する「空き家」といった資源を循環させることでまちへの展開力を強める。本館の改修に合わせて、改修前、改修中、改修後という3つの段階で計画を立てることで具体のプロジェクトと資源循環の関係を明確にする。

2.3 資源循環による自治の再生

資源の循環と共に活用する主体による自治を押し進めることで、複合的な主体による複合的な自治の再生を行う。これは世代交代や廃業による主体の変化に対するケアとなるとともに、資源を活用する自由度を高め、地域づくり主体の成長を生むための仕組みとなる。



3 計画と街への展開

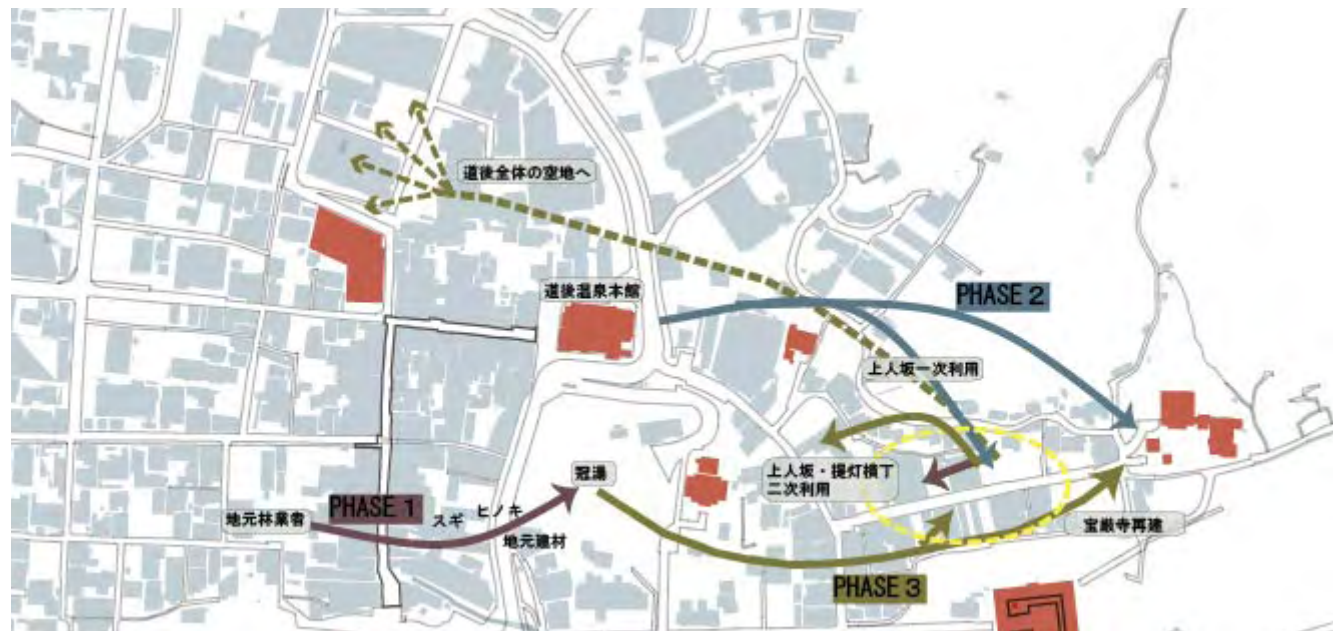
3.1 3PHASE 計画

道後本館の魅力は道後地区全体に波及させるため、道後温泉本館の「改修前・改修中・改修後」の三段階に分け、まちづくりの計画を立てる。資材の循環に際して、資材の利用、空き地の利用、湯の利用のルールを各自治協議会で策定する。

phase 1 : 本館改修前	phase 2 : 本館改修中	phase 3 : 本館改修完了後
冠山 冠山 土地の賃貸契約 空地の一次利用	冠湯 上人坂旅館街 提灯横丁 提灯広場 宝蔵寺の湯	冠座敷 道後地域全体の空地の利用
湯月町		
まちへの展開 伊佐爾神社参道整備(舗装、ライトアップ、ファサード統一) 中心地区の歩行者空間化		白鷺坂水路整備 冠山階段 道後公園整備 シンボルロード

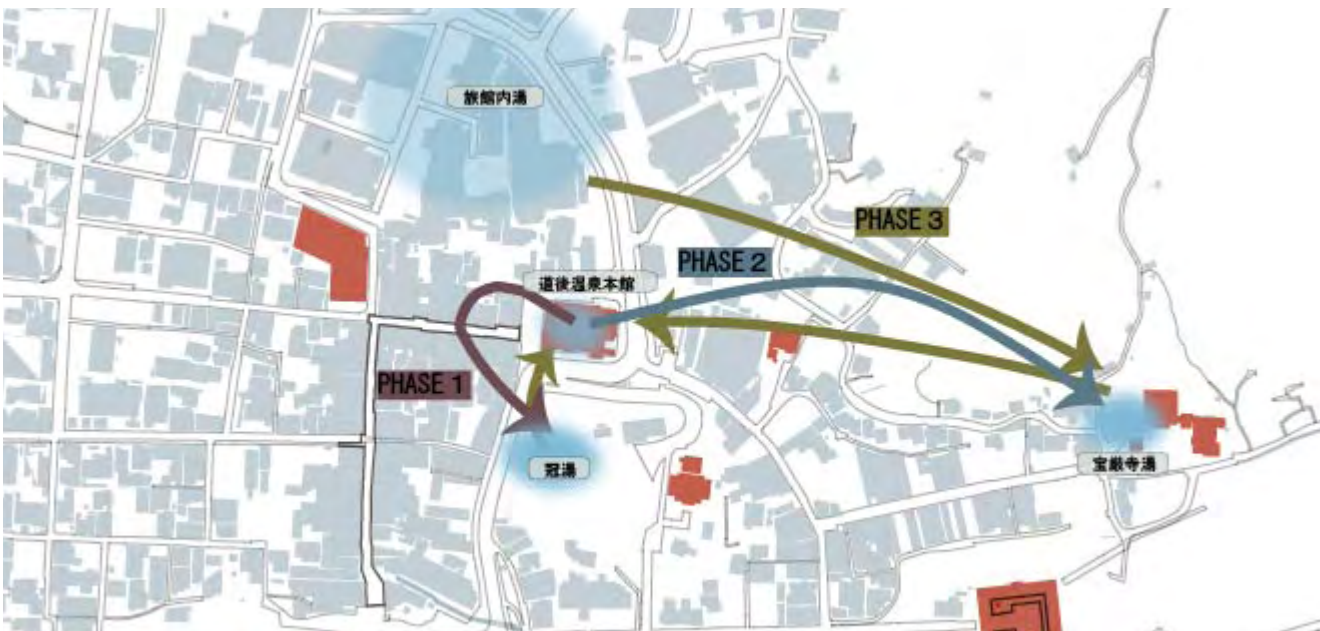
3.3 資源循環

◆建築資材の循環



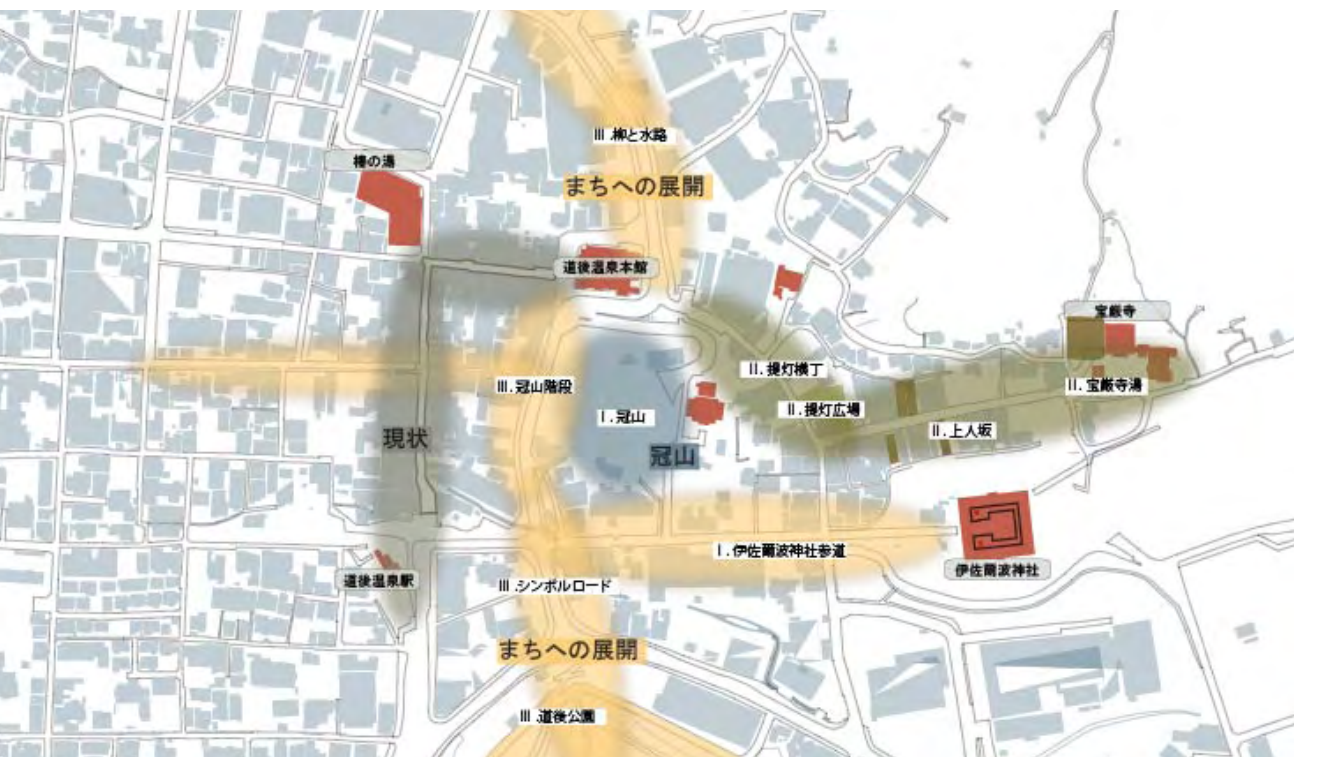
まず冠山を整備する。本館改修により生じる資材は、上人坂や宝蔵寺の整備に再利用する。冠湯の運営終了後や上人坂に新しく旅館が建つときは、そこで使っていたものをさらに違う形態で使う。これらの事業を県の林業振興と合わせて行う。

◆湯の循環

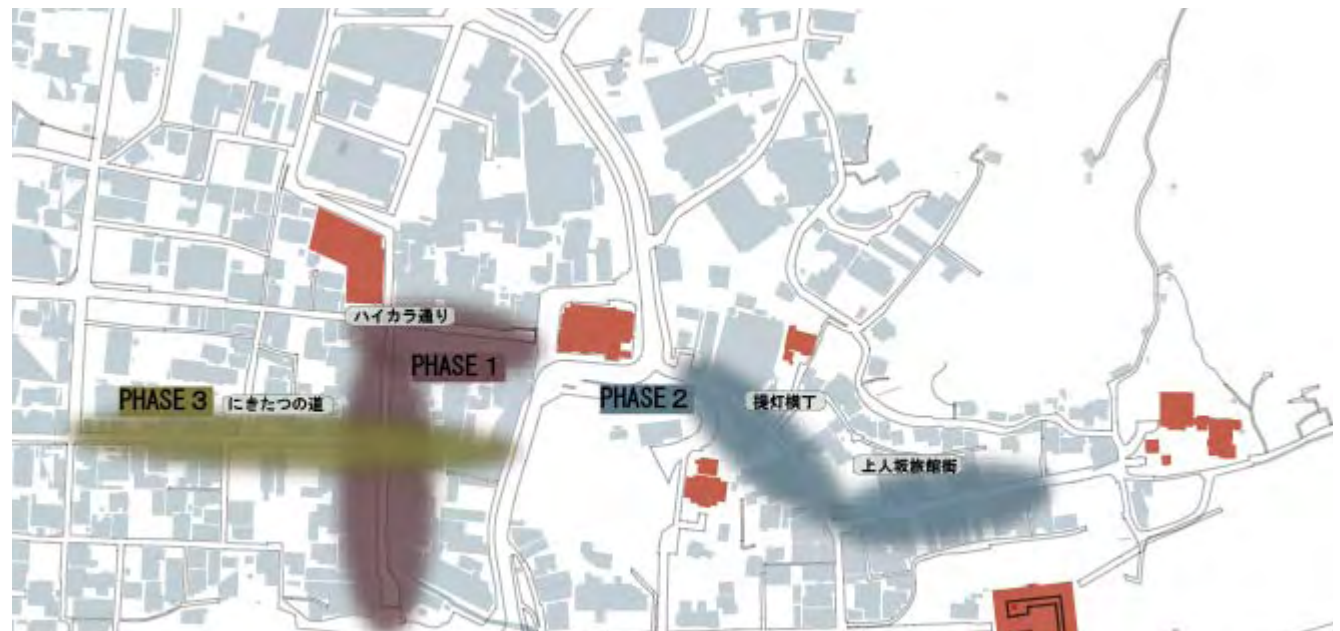


本館改修中は、本館で使っていた湯を冠山と宝蔵寺の新たな温泉施設で利用する。改修完了後は、湯を本館へ戻し、宝蔵寺湯の方は旅館の内湯を分けてもらうことで運営を続けていき、温泉の運営を住民に近くしていく。最終的に排湯をシンボルロードの水路に利用する。

3.2 拠点整備と賑わいの展開



◆人の循環



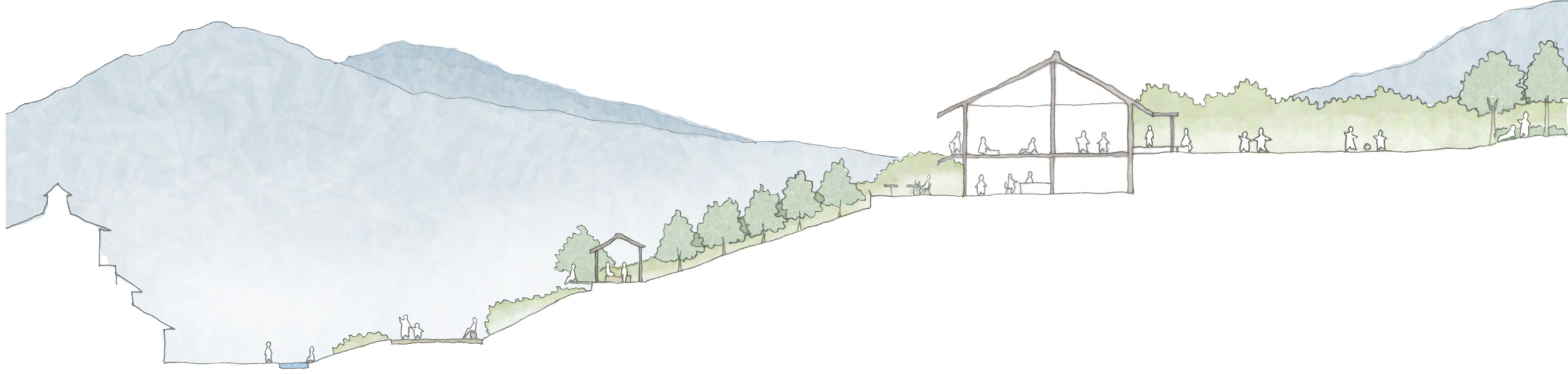
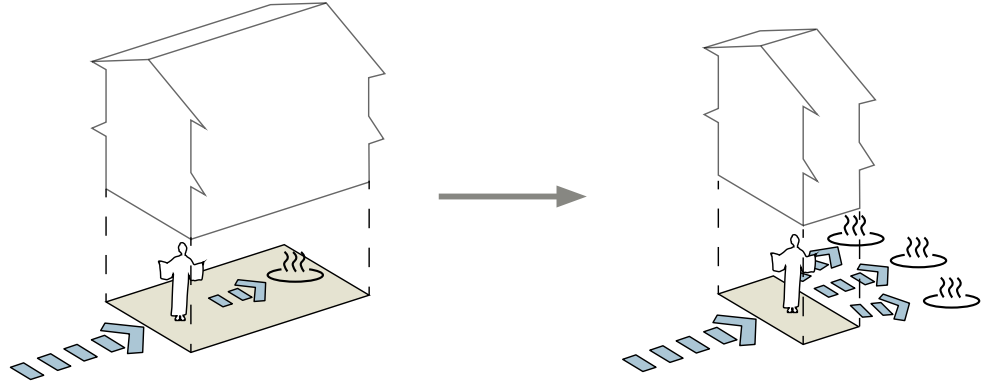
ハイカラ通り商店街の活気を湯月町の方にも広げる。このときに、まちづくりに積極的に参加する意欲のある人材を取り入れる。さらに、にきたつのみちから冠山へのアクセスも確保し、人々が出歩きたくなる街にする。

4 拠点の空間像

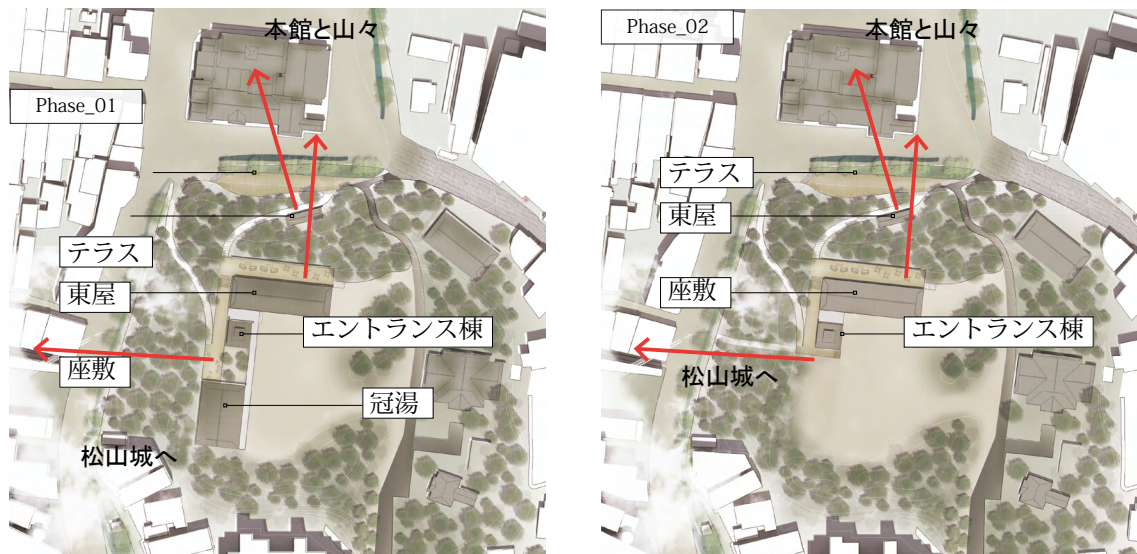
4.1 冠山

◆コンセプト

本館改修工事中に温泉機能を担保する一時的な外湯を冠山に設ける。湯を楽しむ前に座敷に入り、浴衣に着替えるという本館の温泉作法を踏襲し、本館と冠山をつなぐ、斜面に沿った座敷を設ける。外湯が解体された後は、道後の点在する外湯をめぐるための街歩きの手掛かりとして機能していく。

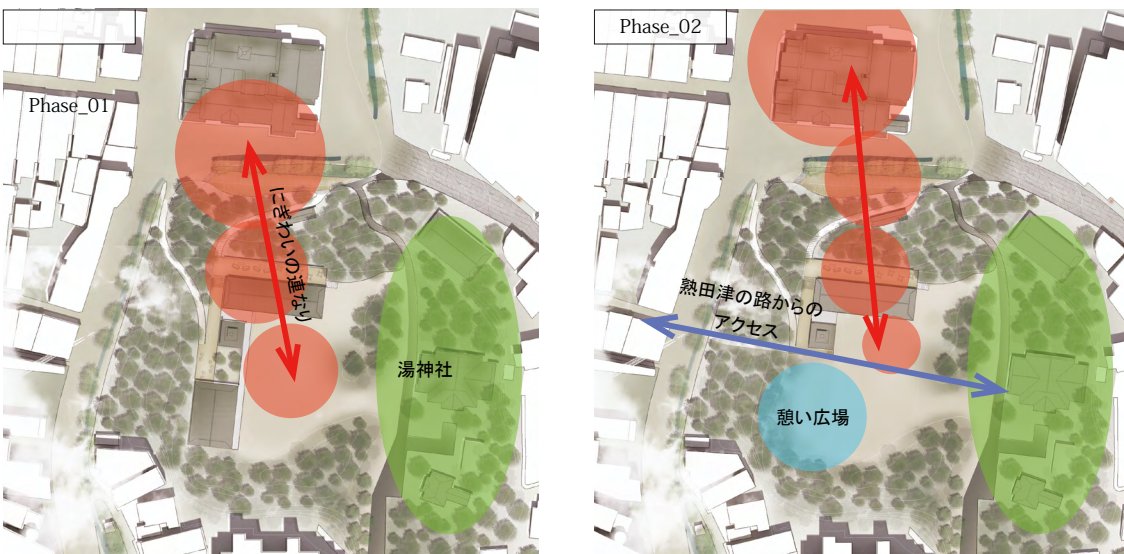


◆配置計画と眺望



Diagram

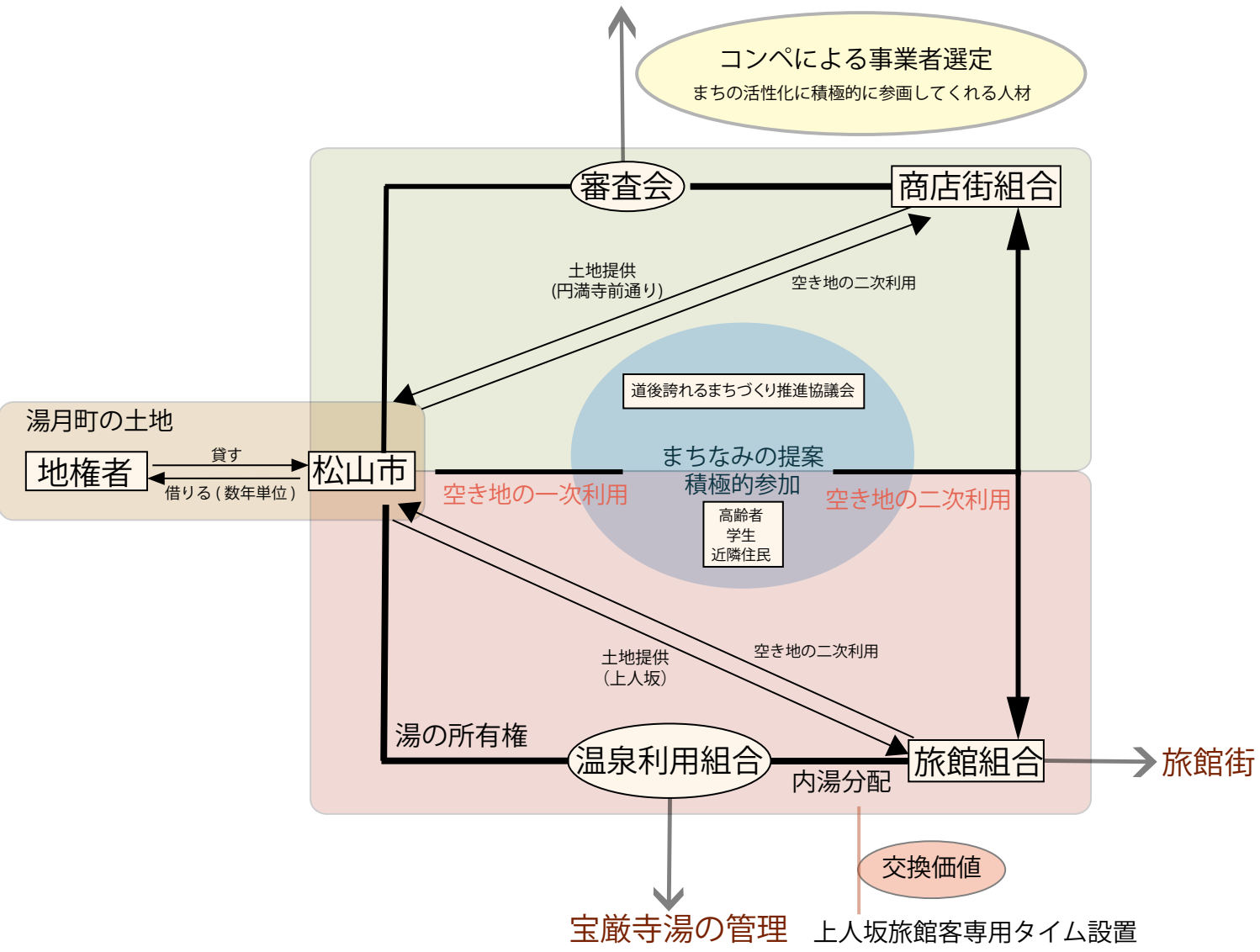
◆段階的な利用



Diagram

4.2 上人坂

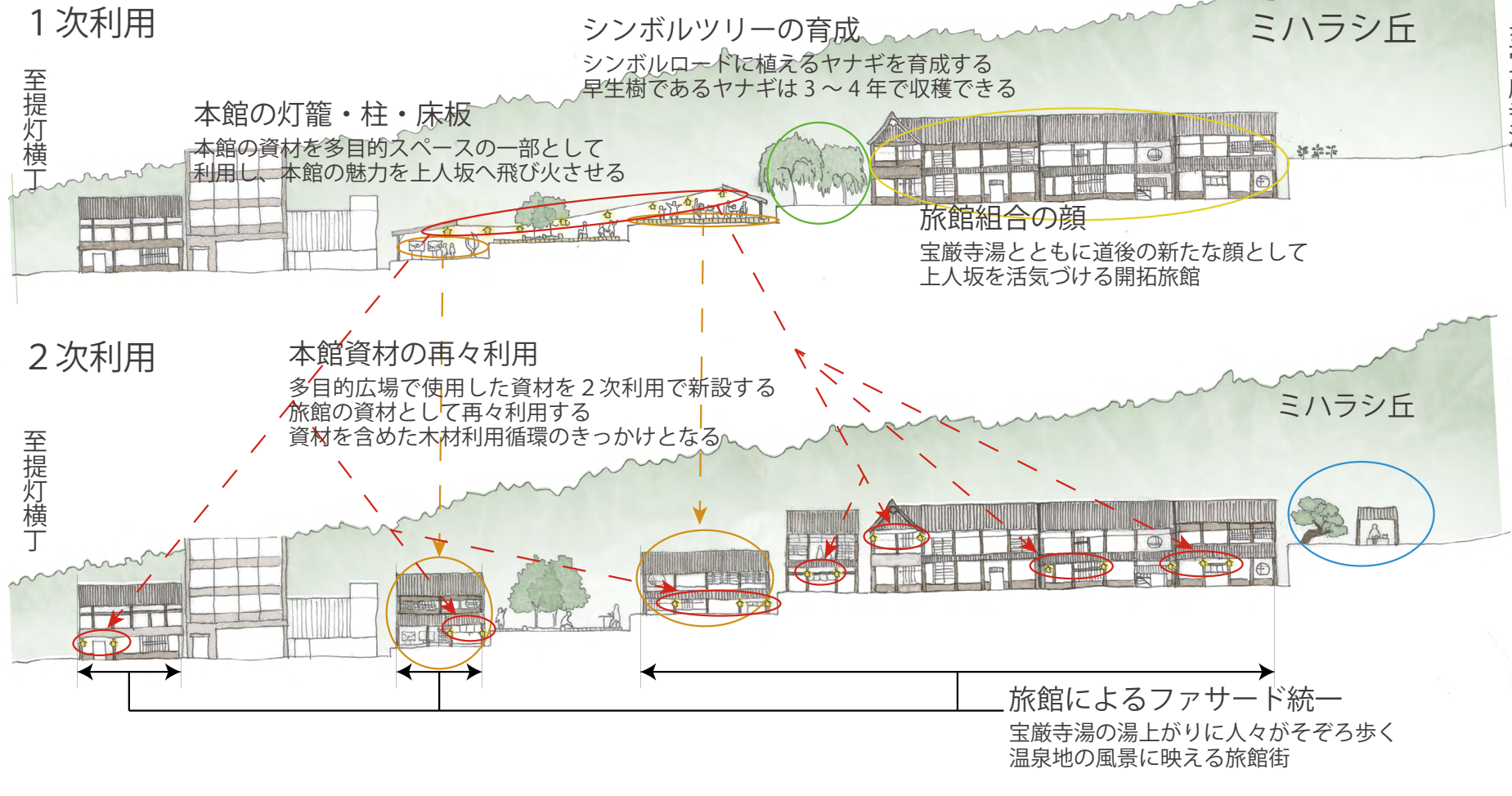
◆整備の仕組み



◆パース



◆断面図



5 道後の将来像

